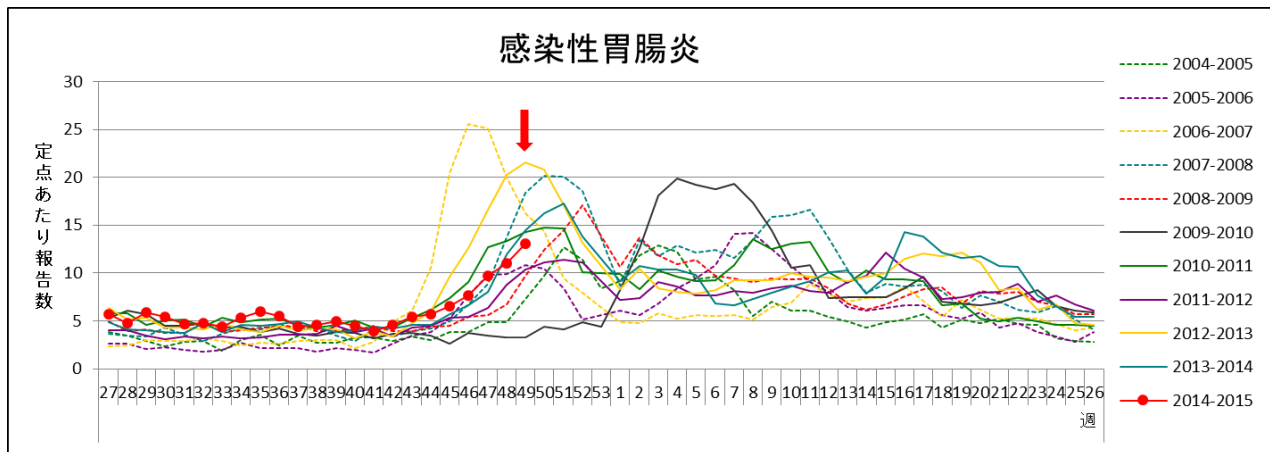


感染性胃腸炎週報 2014 年 第 49 週 (12 月 1 日 ~ 12 月 7 日)

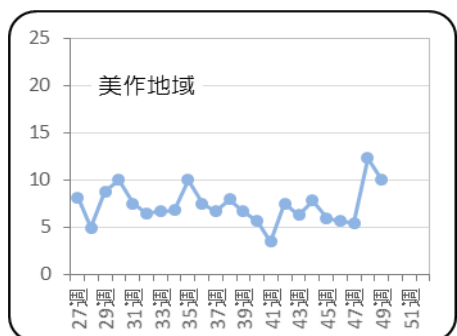
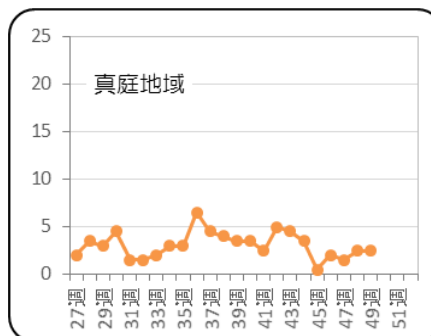
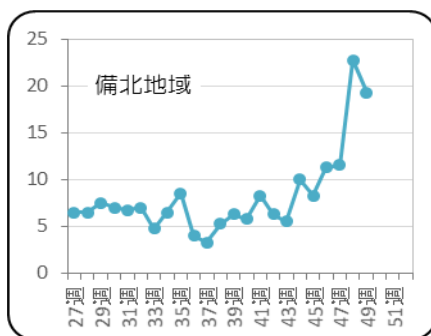
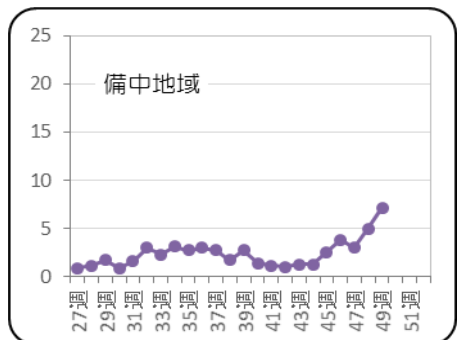
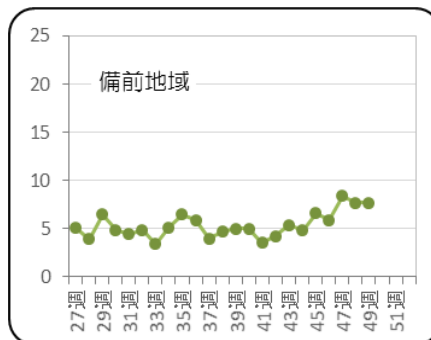
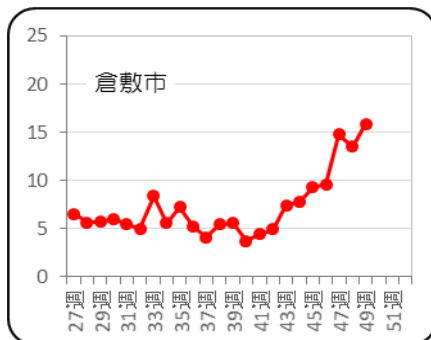
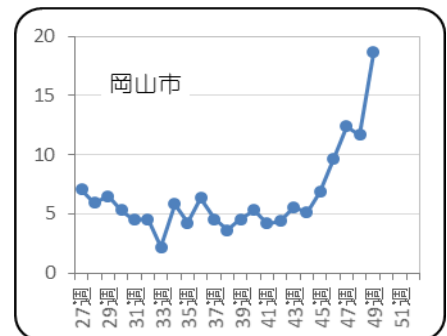
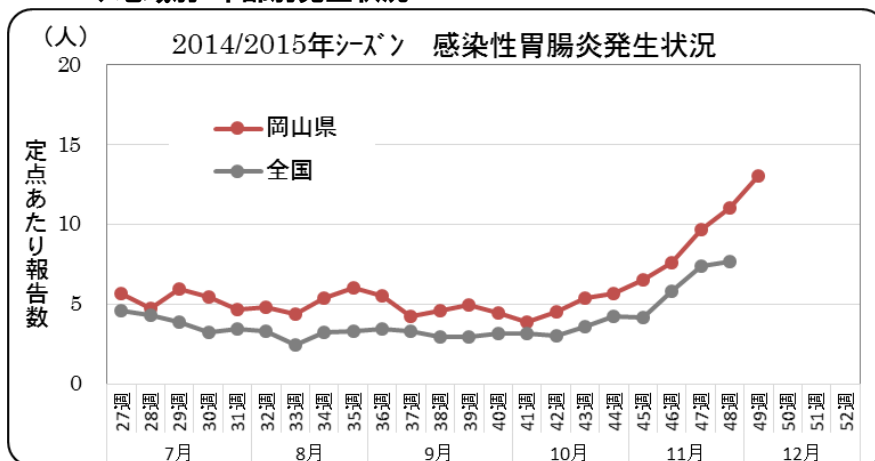
○感染性胃腸炎は、県全体で 705 名（定点あたり 11.02 → 13.06 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で 705 名（定点あたり 11.02 → 13.06 人）の発生があり、前週より増加しました。第 42 週（10/13～10/19）以降、定点あたり報告数の増加が続いています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



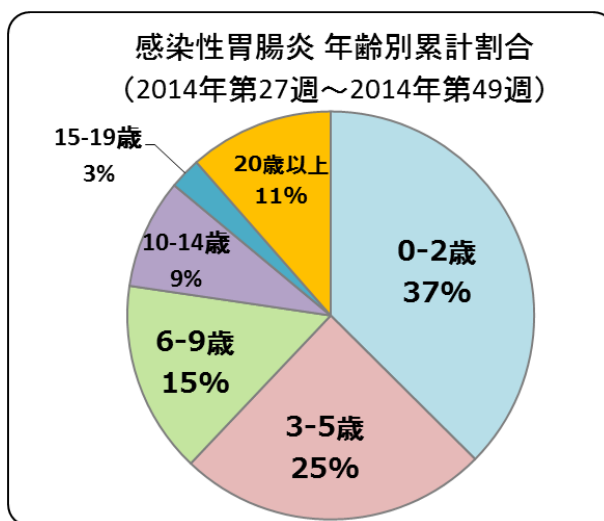
地域別では、備北地域（19.25人）、岡山市（18.64人）、倉敷市（15.91人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、前週にひきつづき発生レベル3となりました。また、岡山市、倉敷市および備中地域で増加がみられました。年齢別累計では、0-2歳が37%と最も多く、5歳以下の乳幼児が全体の62%を占めています。

感染性胃腸炎感染症マップ2014年 49週



レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0< 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

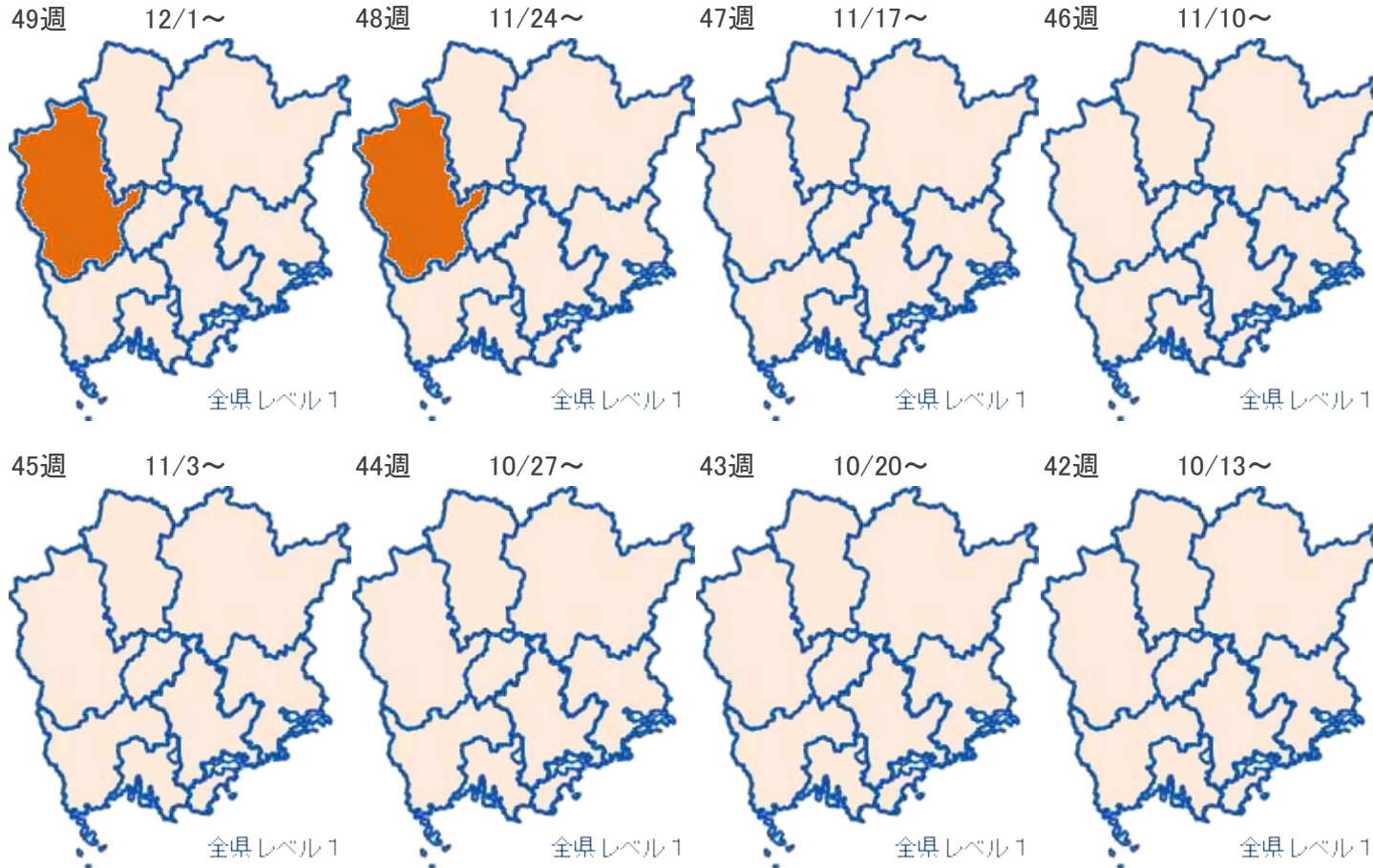
[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県ホームページ生活衛生課）](#)
[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省ホームページ）](#)



岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2014年 49週

2014年12月10日

16:45:08



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。